倉内　満、帖地美乃里氏の第四小学校訪問記

成田　滋

如月の初日は、うららから陽気となりました。かねてから倉内満氏よりご希望のあった市立第四小学校の子ども囲碁教室の訪問が実現しました。第四小は京王八王子駅の近くにあります。午後２時過ぎに帖地美乃里六段と一緒にお越しになりました。まずは井上正彦校長と矢澤英輝副校長にご挨拶し、三階にある「ひらめき教室」へ向かいます。この教室は特別な支援のある子どもが通常学級からやって来て、少人数で指導を受ける教室です。ここが子ども囲碁教室の会場となっています。倉内氏は難儀そうに階段を上られます。エレベータはありません。第四小も例外ではありません。

囲碁教室の子ども達には、事前に「日本棋院の高段者お２人が来校し指導される」というチラシを作り、保護者にも連絡しておきました。２時半に授業が終わると生徒がやってきます。10 名の生徒が揃ったところで、お客様の紹介です。黒板に私がお二人の名前を書き、それを生徒に読ませます。倉内氏のお名前はスラスラと読むのですが、帖地氏のは難しいようです。４年生の女の子が「ちょうち」と言いますと、帖地先生はとても驚かれて、「いままで正しく読んでくれた生徒はいませんでした」と感激そうでした。

第四小　放課後子ども囲碁教室

その日に用意したのは、いつもの 9～13 路盤４セット、大盤マグネット、入門ドリル問題、そしてタブレット(iPad)一台です。タブレットいろいろな易しい詰め碁の問題が入っています。子ども囲碁大会に数回出場している５年生二人に倉内氏と帖地氏から指導を受けて貰いました。最初は自由対局、二局目は一手一手に解説を入れながらの指導です。側で見ていると、「やはり私の指導よりは丁寧で上手だな、、」と反省しました。

大盤マグネットでは二人で対戦させます。磁石のついた碁石を使います。大盤は周りの生徒が眺めるので人気のある道具です。ドリル学習では日本棋院が発

行している「囲碁入門」から問題を複写しておき、それを机のうえで解かせます。攻め方、守り方の基本を覚えさせて、対戦のコツとか進め方を学ばせます。通常の教室では人手が足りないので、ドリル学習は欠かせません。

指導風景

タブレットでの練習問題は、一人でも数人でも楽しめます。数人で使うときは、正解の手を打ったときは、「正解」の画面となり、次の生徒の番となります。不正解のときは「再挑戦」というボタンを押して正解となるまで試すのです。タブレットは取り合いになることもあります。元の画面に戻ると、パスワードを要求してきます。私に「パスワードを教えて！」といってくるのです。「僕はお母さんのスマホのパスワードを知っているよ、」という子どももいます。パスワードの変え方を覚えているのもいます。くわばら、くわばらです。

生徒と一緒に碁盤や碁石をかたづけ、教室の机などを消毒液で拭いてから生徒は帰宅します。校長室での懇談はもっぱら囲碁教室の話です。倉内氏は盛んに市内の学校での教室の状況を説明されます。井上校長は、「今の学校は、さまざまな教育が上から要求されて、忙しい」というのです。道徳が教科となったこと、安全教育、人権教育、環境教育、防災教育などなど、指導すべき領域が盛りだくさんで、教師自らも「ゆとりのなさ」に直面しているというのです。綜合的な学習の時間に囲碁を導入しては、という話題を出しにくくなりました。

子ども囲碁大会の話題となりました。毎年、第四小や第十小、大田和小から生徒が大会に参加していることは井上校長も知っておられます。昨年の６月からこの３校では放課後子ども囲碁教室を続けています。コロナ感染を恐れて教室や大会を中止するのは簡単です。私たちは得てして失敗を恐れて行動しないことがあります。それでは、成果や成功も 100%無くなります。倉内、帖地氏の第四小訪問は、市内の学校における子ども囲碁教室の積極的な展開を語る機会ともなりました。　　（2021 年２月１日）